

## 屋上緑化が誕生するまで

地球環境問題は、地球温暖化、ヒートアイランド現象の深刻化、生物多様性の喪失を始めとしてかつてないスピードで顕在化しており、「国連生物多様性の10年」においても地域における生物多様性の重要性を知り、自然との繋がりを取り戻すことが期待されています。

市ケ谷キャンパスは、新宿区、千代田区にまたがる「外濠」に所在する都市型キャンパスであり、緑が少ない点が課題でした。

東京都は、2001年に「東京における自然の保護と回復に関する条例」を改正・施行し、東京都が定めた条件に基づいて「屋上緑化」を義務付けました。

本学においては、「キャンパス内に緑が少ない。それなら使われていない屋上を緑化しよう!」という声が学生からあがり、2003年10月に「環境展」において、学生サークル及び学部ゼミが「屋上緑化計画」を提案したことが「屋上緑化」誕生のきっかけとなりました。



ボアソナード・タワー4階「グリーン・テラス」竣工前後

2004年4月には、市ケ谷環境委員会・環境教育委員会を中心とした教職員及び公募の学生スタッフから構成される同プロジェクトの前身である「法政大学屋上緑化プロジェクト」が始動し、「屋上緑化」の企画から維持管理までの全てのプロセスに学生が積極的に参加しました。2005年3月には、58年館屋上「オリーブ・ガーデン」、ボアソナード・タワー4階「グリーン・テラス」という二つが市ケ谷キャンパスに誕生しました。



位置：ボアソナード・タワー4階 建物竣工年度：2000年度  
面積：280㎡ 耐荷重：300kg/㎡



## 第十三回 新宿エコワン・グランプリ グループ部門 優秀賞受賞

「法政大学屋上緑化維持管理プロジェクト——法政大学で最愛の庭園を目指します——」を紹介します。

## プロジェクトの活動概要

「グリーン・テラス」は、メダカの泳ぐ「ひょうたん池」の周りを中心に、百合や薔薇、チューリップ、シャクナゲ、紅葉、ラベンダー、紫陽花のように四季を通して楽しめる花々に彩られてアゲハ蝶も遊びに来る花壇が特徴的です。



南国気分が楽しめるブーゲンビリアとハイビスカス

「グリーン・テラス」は、設置後の維持管理に要する費用や作業の負荷を考慮した「省管理設計 (LCA-Life Cycle Assessment)」、植栽の水やりに利用する水に学食等の廃水を浄化した「中水 (再生水)」、木屑と廃プラスチックから制作された「リサイクル木材」が取り入れられています。

2019年度は、「法政大学で最愛の庭園を目指します」をコンセプトに、B区画では初夏から初冬にかけてハイビスカスやブーゲンビリアを中心とした南国風の花壇作りにチャレンジし、冬は鳥が好む実をたくさんつけた四季橘を植え付けて、気候変動の適応策や鳥の生息空間としての「屋上緑化」の可能性が示唆されました。また、D (一部)、G区画は、学生や教職員の有志が、独自の視点で主体的に「緑化」に取り組みました。



冬はブーゲンビリアとハイビスカスを屋内に鉢あげしてたくさん実をつけた四季橘が登場

2020年3月、同プロジェクトは、新宿区、千代田区にまたがる「外濠」における人間や生物にとっても居心地のいい「法政大学で最愛の庭園」を目指した取り組みとして、「第13回新宿エコワン・グランプリグループ部門 優秀賞」を受賞しました。



## 今後のプロジェクトの予定

2020年度は「Real Gardener」を目指して、樹木や植物や庭園に遊びにくる鳥や蝶を始めとする生物の生息・生育空間である「法政大学で最愛の庭園」において皇居・北の丸公園、靖国神社を経て外濠公園につながるビオトープネットワークを意識し、「自然観察」や気候変動の適応策としての「屋上緑化」、「持続可能な地球社会の構築」に貢献できる人材育成を視野に入れたプロジェクトに発展させる予定であります。

(法政大学環境センター 榎本 直子)